

Gilles Deleuze  
Félix Guattari



ドゥルーズ&ガタリ／宇野邦一訳  
**カフカ**  
マイナー文学のための新訳



【内容紹介】

世紀の名著『アンチ・オイディプス』と『千のプラトー』の間に刊行された、すさまじい思考の生気が、新訳で蘇る！ ただ不条理を内向させるのではなく、あくまで闘うカフカ、書きながら、奇妙な戦いを続けたカフカ、悲劇ではなく喜劇、否定ではなく肯定、超越ではなく内在……〈マイナー文学〉として、カフカ自身の書いたテキストを〈名作〉の圏から引きずりだす。〈政治〉の定義を再考し、生々しく蠕動する〈過程〉そのものとして読み直す。

【目次】

第1章●内容と表現

うなだれた頭、もたげた頭/写真、音

第2章●太りすぎのオイディプス

二重の乗り越え——社会的三角形、動物になること

第3章●マイナー文学

言葉/政治/集団

第4章●表現の構成要素

愛の手紙と悪魔の契約/短編小説と動物になること/長編小説と機械状アレンジメント

第5章●内在性と欲望

法、罪悪性等々に抗して/過程——隣接的なもの、連続的なもの、無制限なもの

第6章●系列の増殖

権力の問題/欲望、切片、線

第7章●連結器

女性と芸術家/芸術の反美学主義

第8章●ブロック、系列、強度

カフカによる建築の二つの状態/もろもろのブロック、それらの異なる形式と長編小説の構成/マニエリズム

第9章●アレンジメントとは何か

言表と欲望、表現と内容

訳注

訳者あとがき

【著訳者紹介】

ジル・ドゥルーズ (Gilles Deleuze)

1925年生まれ。哲学者。主な著書に、『経験論と主体性 ヒュームにおける人間的な自然についての試論』『ベルクソニズム』『ニーチェと哲学』『カントの批判哲学』『ブルーストとシーニュ』『マゾッホとサド』『スピノザと表現の問題』『意味の論理学』『差異と反復』『シネマ1・2』などがある。1995年死去。

フェリックス・ガタリ (Félix Guattari)

1930年生まれ。哲学者、精神分析家。主な著書に、『精神分析と横断性 制度分析の試み』『分子革命 欲望社会のミクロ分析』『機械状無意識 スキゾ分析』『闘走機械』『分裂分析的地図作成法』『三つのエコロジー』『カオスモーズ』『リトルネロ』『人はなぜ記号に従属するのか 新たな世界の可能性を求めて』などがある。1992年死去。

宇野 邦一 (ウノ クニイチ)

1948年生まれ。立教大学名誉教授。主な著書に、『意味の果てへの旅』『予定不調和』『D 死とイマージュ』『アルトー 思考と身体』『詩と権力のあいだ』『ドゥルーズ 流動の哲学』『ジャン・ジュネ 身振りと内在平面』『破局と渦の考察』『映像身体論』『ドゥルーズ 群れと結晶』『吉本隆明 煉獄の作法』『土方巽 衰弱体の思想』などがあり、訳書に、ドゥルーズ・ガタリ『アンチ・オイディプス』『千のプラトー』(共訳)、ドゥルーズ『フランシス・ベーコン 感覚の論理学』『シネマ2』(共訳)、『フーコー』『巽 ライブニッツとバロック』『ドゥルーズ書簡とその他のテキスト』(共訳)、ベケット『伴侶』『見ちがい言いちがい』、ジュネ『判決』『薔薇の奇跡』、アルトー『神の裁きと訣別するため』(共訳)、『タラウマラ』などがある。

カフカ〈新訳〉 ( )冊

四六判/218ページ/上製/定価(本体2,700円+税)  
ISBN978-4-588-01068-2 C1398 [2017年10月刊]

帖合・番線

ご芳名

一般財団法人  
法政大学出版局

Hosei University Press  
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3  
3-2-3 Kudankita, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0073

Tel. 03-5214-5540 | Fax. 03-5214-5542